

## 第 21 回宇宙政策委員会 議事要旨

1. 日時：平成 26 年 4 月 3 日（木） 10:00-11:40

2. 場所：内閣府宇宙戦略室大会議室

3. 出席者

(1) 委員

葛西委員長、松井委員長代理、中須賀委員、山川委員、山崎委員

(2) 政府側

山本内閣府特命担当大臣(宇宙政策)、亀岡内閣府大臣政務官、西本宇宙戦略室長、中村宇宙戦略室審議官、頓宮宇宙戦略室参事官

4. 議事要旨

冒頭、山本大臣から以下のような挨拶があった。

- ・本日この場で審議される宇宙輸送システム長期ビジョンは、将来の新しい宇宙輸送の姿を描くもので、宇宙輸送の今後の方向性を示すものと期待している。
- ・戦略的予算配分方針は重要であり、これを進化させていただきたい。また、同方針が各省の予算に反映されるよう後押ししていきたい。

(1) 宇宙産業部会からの報告

宇宙産業部会の審議状況について、資料 1、資料 1 参考 1 及び資料 1 参考 2 に基づいて中須賀部会長代理から報告を行った。主な意見は以下の通り。

- 海外のニーズもある L バンド SAR、AMSR センサや、センチメートル級の精度の準天頂衛星のような、日本に優位性がある得意技術を生かすべき。

(2) 宇宙輸送システム部会からの報告

宇宙輸送システム部会の審議状況について、資料 2-1、資料 2-2、資料 2-3、資料 2-4 及び資料 2-5 に基づいて山川部会長から報告を行った。主な意見は以下の通り。

- 新型基幹ロケットについて衛星側からみると、打ち上げコスト以外に、短期間で打ちあがるのか、振動や衝撃が小さいのかといった要素もあるので、総合的に魅力的なロケットにしていきたい。

(3) 宇宙科学・探査部会からの報告

宇宙科学・探査部会の審議状況について、資料 3 及び資料 3 参考に基づいて松井部会長代理から報告を行った。

(4) 平成 27 年度宇宙開発利用に関する戦略的予算配分方針（案）について

平成 27 年度宇宙開発利用に関する戦略的予算配分方針（案）について、資料 4 に基づいた事務局からの説明の後、審議を行った。主な意見は以下の通り。

- 国家安全保障政策と宇宙政策の緊密な連携が必要。

- 準天頂衛星の2～4号機が2010年代後半に打ち上がるが、2010年に打ち上げた「みちびき」は2020年頃に寿命を迎えるので、その後継機について考えるべき。
- 来年度に向けて重視すべきはリモートセンシング衛星である。今後、ALOS-2やASDARO 1が打ち上げられるので、そのデータの利用を通じて、関係者のリモートセンシングに対する認識を変えていくべき。
- 今後10年から20年の宇宙予算の展望を示す長期的なビジョンを打ち立てていくことが重要。
- 長期的視点で宇宙政策全般を考えるためには、現状のような、当初予算が減少し、その減少分を補正予算で補うという構造には限界があるのではないか。宇宙予算の枠を増やしていくことが必要ではないか。

以上